

パラスタス

大斎第2週－第4週

スポタ 早課

全死者のための祈り

名古屋ハリストス正教会

2007年改訂

大齋 第2、第3、第4のスポタ（全死者の記憶）¹

早課

司祭 我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、

誦経 「アミン」

来れ、我等の王・神に叩拝せん。

来れ、ハリストス我等の王・神に叩拝俯伏せん。

来れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

誦経 第19 聖詠

願くは主は憂の日に於て爾に聴き、イアコフの神の名は爾を扞ぎ衛らん。願くは聖所より助を爾に遣し、シオンより爾を固めん。願くは爾が悉くの獻物を記憶し、爾の燔祭を肥えたる物とせん。願くは主は爾の心に循ひて爾に與へ、爾の謀る所を悉く遂げしめん。我等は爾の救を喜び、我が神の名に依りて旌を揚げん。願くは主は爾が悉くの願を成就せしめん。今我主が其膏つけられし者を救ふを知れり、彼は聖天より其救の右の手の力を以て之に對ふ。或は車を以て、或は馬を以て誇る者あり、唯我等は主我が神の名を以て誇る、彼等は動きて顛れ、唯我等は起きて直く立つ。主よ、王を救へ、又我等が爾に呼ばん時、我等に聴き給へ。

第20 聖詠

主よ、王は爾の力を樂み、爾の救を歡ぶこと極なし。其心に望む所は、爾之を與へ、其口に求むる所は、爾之を辭まざりき。蓋は仁慈の祝福を以て彼をむかへ、純金の冠を其首に冠せたり。彼生命を爾に求めしに、爾之に世世の壽を賜へり。彼の榮は爾の救を以て大なり、爾は尊榮と威嚴とを之に被らせたり。爾は彼に祝福を世世に賜ひ、爾が顔の歡にて彼を樂ませたり。蓋王は主を頼み、至上者の仁慈に因りて動かざらん。爾の手は爾が悉くの敵を尋ね出し、爾の右の手は凡そ爾を憎む者を尋ね出さん。爾怒る時彼等を火爐の如くなさん、主は其怒に於て彼等を滅し、火は彼等を齧まん。爾は彼等の果を地より絶ち、彼等の種を人の子の中より絶たん、蓋彼等は爾に向ひて惡事を企て、謀を設けたれども、之を遂ぐることはざりき。爾彼等を立てて的となし、爾の弓を以て矢を其面に發たん。主よ、爾の力を以て自ら擧れ、我等は爾の權能を歌頌讚榮せん。

¹ 参考資料：三歌齋經、八調經から「スポタ」に「アリルイヤ」を歌ふ時の奉事、及び死者祈祷禮儀、The Lenten Triodion, Постная Триодь

誦經 光栄は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に、「アミン」

誦經 **【聖三祝文】【至聖三者】【天主經】**

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に、「アミン」

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に、「アミン」

天に在す我等の父よ、願くは爾の名は聖とせられ、爾の国は来り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に、

誦經 「アミン」

誦經 **【トロパリ】**

主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、吾が国に福を與へ、爾の十字架にて爾の住所を護り給へ。

光栄は父と子と聖神[°]に帰す。

甘んじて十字架に上げられしハリストス神よ、爾が同名の新なる住所に爾の恵を垂れ給へ、爾の力を以て我が国を司る者を樂ませ、其諸敵に勝たしめ給へ、彼は爾が和平の武器、勝たれぬ勝を以て其助とすればなり。

今も何時も世世に、「アミン」

威厳にして恥を得しめざる転達、至善にして讃詠せらるる生神女よ、我等の祈禱を斥けず、正教の人の住所を固め、吾が国を護り給へ、独恩寵に満たさるる者よ、爾神を生みたればなり。

【重連禱】 (通常のメロディ)

輔祭 神よ、爾の大なる憐に因りて我等を憐め、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

(詠) 主憐めよ。(三次)

輔祭 又吾が国の天皇、及び国を司る者の為に祈る。

(詠) 主憐めよ。(三次)

輔祭 又教会を司る我等の(府)主教()の為に祈る。

(詠) 主憐めよ。(三次)

輔祭 又衆兄弟及び衆「ハリストティアニン」の為に祈る。

(詠) 主憐めよ。

(三次)

司祭 蓋爾は仁慈にして人を愛する神なり、我等爾父と子と聖神^oに光栄を帰す、今も何時も世世に。
(詠) 「アミン」

(詠) 神父よ、主の名を以て祝讚せよ。(福をくだせ)²

司祭 光栄は一性にして生命を施す分れざる聖三者に帰す、今も何時も世世に。
(詠) 「アミン」

誦経 至高きには光栄神に帰し、地には平安降り、人には恵臨めり。(三次)
主よ、我が唇を啓け、然せば我が口は爾の讚美を揚げんとす。(二次)

誦経 【六段の聖詠】

第3聖詠

主よ、我が敵は何ぞ多き、多くの者は我を攻む、多くの者は我が霊を指して、彼は神より救を得ずと云ふ。然れども主よ、爾は我を衛る盾なり、我の榮なり、爾は我が首を擧ぐ。我が聲を以て主に呼ぶに、主は其聖山より我に聞き給ふ。我臥し、寝ね、又覺む、主は我を扨ぎ衛ればなり。環りて我を攻むる萬民は、我之を懼れざらん。主よ、起きよ、吾が神よ、我を救ひ給へ、蓋爾は我が諸敵の頬を打ち、悪人の齒を折けり。救は主に依る、爾の降福は爾の民に在り。我臥し、寝ね、又覺む、主は我を扨ぎ衛ればなり。

第37聖詠

主よ、爾の憤を以て我を責むる母れ、爾の怒を以て我を罰する母れ、蓋爾の矢は我に刺さり、爾の手は重く我に加はる。爾の怒に依りて我が肉に傷まざる所なく、我の罪に因りて我が骨は安きを得ず、蓋我が不法は我が首に溢れ、重任の如く我を圧す、我の無智に依り我が傷腐れて且臭し。我屈まりて仆れんとし、終日憂ひて行く、蓋我が腰は熱に悩まされ、我が肉に傷まざる所なし。我力衰へて痛く憊れ、我が心の裂くるによりて號ぶ。主よ、我が悉くの願は爾の前に在り、我が歎息は爾に隠るるなし。我が心は戦ひ栗き、我が力は我より脱け、我が目の光も已に我にあるなし。我が朋と親しき者とは我が傷を見て離れ、我が親戚は遠ざかりて立つ。我が生命を覓むる者は網を設け、我を害はんと欲する者は我が淪亡のことを言ひて、毎日悪しき謀を圖む、然れども我は豊の如く聴かず、唾の如く己の口を啓かず、是に於て我は聞かなく、其口に答ふる所なき人の如くなれり、蓋主よ、我爾を待む、主我が神よ、爾聞き給はん。我言へり、願くは敵は我に勝たざらん、我が足の踏く時、彼等は我に向ひて誇り高ぶる。我殆ど仆れんとす、我の憂は常に我が前に在り。我は我が不法を認め、我が罪の為に甚哀

² 「祝讚せよ」「福を降せ」祈禱書によって両方あるが、ここでは一般的に歌われる後者を採用した。

む。我が敵は生きて 愈 強く、故なくして我を疾む者は 益 多し、悪を以て我の善に報ゆる者は、我が善に従ふに因りて我の敵となれり。主我が神よ、我を遣つる母れ、我に遠ざかる母れ、主我の救主よ、速に來りて我を救ひ給え。主我が神よ、我を遣つる母れ、我に遠ざかる母れ、主我の救主よ、速に來りて我を救ひ給え。

第 62 聖詠

神よ、爾は我の神なり、我暁より爾を尋ぬ、我が靈は渴きて爾を望み、我が身は空しくして燥ける水なき地にありて、痛く爾を慕ふ、爾の能力と爾の光榮とを見ん為なり、我が曾て爾を聖所に觀しが如し、蓋爾の愛憐は生命に愈る。我が口爾を讚美せん。是くの如く我生ける時爾を崇め讚め、爾の名に依りて我が手を挙げん。我が靈の飽かさること脂油を以てするが如く、我が口歡の聲にて爾を讚美す、榻にて爾を記憶し、夜更に爾を思ふ時に在り。蓋爾は我の扶助なり、爾が翼の蔭に於て我欣ばん、我が靈は親しく爾に付き、爾の右の手は我を扶く。彼の我が靈を害はんことを謀る者は地の深き處に降らん、彼等刃に櫻りて、狐の獲物とならん。惟王は神の為に楽しまん、凡そ彼を以て誓ふ者は譽を得ん、蓋謊を言ふ者の口は塞がれんとす。夜更に爾を思ふ、蓋爾は我の扶助なり、爾が翼の蔭に於て我欣ばん、我が靈は親しく爾に付き、爾の右の手は我を扶く。

誦經 光榮は父と子と聖神^oに歸す、今も何時も世世に、「アミン」
 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す。(三次)
 主憐めよ。(三次)
 光榮は父と子と聖神^oに歸す、今も何時も世世に、「アミン」

誦經 第 87 聖詠

主我が救の神よ、我晝夜爾の前に呼ぶ、願くは我が禱は爾が顔の前に至らん、爾の耳を我が願に傾けよ、蓋我が靈は苦難に飽き、我が生命は地獄に近づけり。我は墓に入る者と等しくなり、力なき人の如くなれり、死人の中に投げられて、猶殺されて柩に臥し、爾に復記憶せられず、爾の手より絶たれし者の如し。爾我を深き坎に、闇冥に、淵に置けり。爾の憤は重く我に加はり、爾の波を傾けて我を撃てり。爾我が識る所の者を我より遠ざけ、我を彼等の惡むべき者となせり、我閉されて出づるを得ず。我が目は愁苦に因りて痛く疲れたり、主よ、我終日爾を呼び、手を伸べて爾に向へり。爾豈に死せし者に奇跡を施さんや、死せし者豈に起ちて爾を讚揚せんや、爾の憐は墓の中に、爾の眞は腐敗の地に豈に傳へられんや、爾の奇跡は闇冥に、爾の義は遺忘の地に豈に識られんや。主よ、我爾に呼ぶ、我の禱は晨に爾の前に在り。

主よ、爾は何爲れぞ我が霊を棄て、爾の顔を我に隠し給ふ。我少きより禍に遭ひ、幾ど消え亡せんとし、爾の恐嚇を受けて我が疲は極れり。爾の憤は我を度り、爾の恐嚇は我を碎けり、毎日水の如くに我を環り、齋しく集まりて我を圍む。爾は我が友と親しき者とを我より遠ざけたり、我が識る所の者は見えず。

主我が救の神よ、我晝夜爾の前に呼ぶ、願くは我が祈は爾が顔の前に至らん、爾の耳を我が願に傾けよ。

第 102 聖詠

我が霊よ、主を讃め揚げよ、我が中心よ、其聖なる名を讃め揚げよ。我が霊よ、主を讃め揚げよ、彼が悉くの恩を忘るる母れ。彼は爾が諸の不法を赦し、爾が諸の疾を療す、爾の生命を墓より救ひ、憐と恵とを爾に冠らせ、幸福を爾の望に飽かしむ、爾が若復さること驚の如し。主は凡そ迫害せらるる者の為に義と審判とを行ふ。彼は己の途をモイセイに示し、己の作爲をイブライリの諸子に示せり。主は宏慈にして矜恤、寛忍にして鴻恩なり、怒りて終あり、憤を永く抱かず。我が不法に因りて我等に行はず、我が罪に因りて我等に報いず、蓋天地より高きが如く、斯く主を畏るる者に於ける其憐は大なり、東の西より遠きが如く、斯く主は我が不法を我等より遠ざけたり、父の其子を憐むが如く、斯く主は彼を畏るる者を憐む。蓋彼は我が何より造られしを知り、我等の塵なるを記念す。人の日は草の如く、其栄ゆること田の華の如し。風之を過ぐれば無に歸し、其有りし處も亦之を識らず。唯主の憐は彼を畏るる者に世より世に至り、彼の義は其約を守り、其誠を懐ひて、之を行ふ子孫孫に及ばん。主は其實座を天に建て、其国は萬物を統べ治む。主の諸の天使、能力を具へ、其聲に遵ひて其言を行ふ者よ、主を讃め揚げよ。主の悉くの軍、其旨を行ふ役者よ、主を讃め揚げよ。凡そ主の悉くの造工よ、其一切治むる處に於て主を讃め揚げよ。我が霊よ、主を讃め揚げよ。其一切治むる處に於て、我が霊よ、主を讃め揚げよ。

第 142 聖詠

主よ、我が祈を聆き、爾の眞實に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聴き給へ。爾の僕と訟を為す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が霊を逐ひ、我が生命を地に蹂り、我を久しく死せし者の如く暗に居らしむ、我が霊は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠しきが如し。我古の日を想ひ、凡そ爾の行ひしことを考へ、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向ひ、我が霊は渴ける地の如く爾を慕ふ。主よ、速に我に聴き給へ、我が霊は衰へたり、爾の顔を我に隠す母れ、然

ずば我は墓に入る者の如くならん。我に^{つと}夙に^{なんじ}爾の^{あわれみ}憐を聴かしめ給へ、我^{なんじ}爾を頼めばなり。主よ、我に行くべき^{みち}途を示し給へ、我が^{たましい}霊を^{なんじ}爾に挙げればなり。主よ、我を我が敵より救ひ給へ、我^{なんじ}爾に趨り^つ附く。我に^{なんじ}爾の旨を行ふを教え給へ、^{なんじ}爾は^{なんじ}私の神なればなり、願くは^{なんじ}爾の善なる神[°]は我を義の地に導かん。主よ、^{なんじ}爾の名に依りて我を生かし給へ、^{なんじ}爾の義に依りて我が^{たましい}霊を苦難より引き出し給へ、^{なんじ}爾の^{あわれみ}憐を以て我が敵を滅し、凡そ我が^{たましい}霊を攻むる者を^{たいら}夷げ給へ、我は^{なんじ}爾の僕なればなり。

主よ、^{なんじ}爾の義に依りて我に聴き給へ、^{なんじ}爾の僕と^{うったえ}訟を^{なか}為す母れ。

主よ、^{なんじ}爾の義に依りて我に聴き給へ、^{なんじ}爾の僕と^{うったえ}訟を^{なか}為す母れ。

願くは^{なんじ}爾の善なる神[°]は我を義の地に導かん。

誦経 光栄は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も^{いつ}世世に、「アミン」
ア ril i ya、A ril i ya、A ril i ya、神よ、光栄は爾に帰す。(三次)

[大連禱] (通常メロディ)

輔祭 我等安和にして主に祷らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 上より降る安和と我等が^{たましい}霊の^{すくい}救の為に主に祷らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん、
(詠) 主憐めよ

輔祭 此の聖堂、及び信と^{つし}慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の為に主に祷らん、
(詠) 主憐めよ

輔祭 教会を司る我等の(府)主教()、司祭の尊品、ハリストスに^よ因る輔祭職、^{ことごと}悉くの教衆、及び衆人の為に主に祷らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祷らん。 (詠) 主憐めよ

輔祭 此の都^ま邑と凡^{およ}の都^ま邑と地方の為、及び信を以て此の^{うち}中に居る者の為に主に祷らん、
(詠) 主憐めよ

輔祭 気候順和、五穀豊穰、天下泰平の為に主に祷らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 航海する者、旅行する者、病を患^{うれ}ふる者、^{かんなん}艱難に遭^{とりこ}ふ者、^{とりこ}虜となりし者、及び彼等の^{すくい}救の為に主に祷らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 我等^{もろもろ}諸の^{うれい}憂愁と^{いかり}忿怒と^{あやうき}危難とを免るるが為に主に祷らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等^{たす}を^{たす}助け救ひ^{たす}憐み^{たす}護れよ、 (詠) 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に^{おのおの}各の身を以て、^{ならび}並に^{ことごと}悉くの我等の^{いのち}生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に

司祭 ^{けだし}蓋凡そ光栄尊貴伏拝は爾父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も^{いつ}世世に、

[ア ril イヤ] 2 調 (ただし下記楽譜はパニヒダと同じもので代用)

輔祭 (第一句) 爾が選^ひ近^づけしものは福なり。

(詠) ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ

輔祭 (第二句) 彼等の記憶は世世に在らん。

(詠) ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ

輔祭 (第三句) 彼等の^{たましい}靈は福に居らん。

(詠) ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ



[トロバリ] 2 調

(詠) 使徒、致命者、預言者、成聖者、克肖者及び諸義人、善く戦を終へて信を守りし者よ、祈る、仁慈なる救世主の前に勇みを保つ者として、彼に我等の^{たましい}靈の救はれんことを祈り給へ。(2次)

光栄は父と子と聖神に帰す。

主よ、仁慈なるに因りて爾の諸僕を記憶して、其の在世の時に行ひし諸罪を赦し給へ、罪なきものなればなり、唯爾は罪なし、且つ世を逝りし者に安息を賜ふよ能くす。

今も何時も世々にアミン。

言ひ難き光の聖なる母よ、我等天使の歌を以て爾を尊みて、敬虔に崇め讃む。

主よ、仁慈なるによりて、爾の諸僕を記おくして、
 其の在世の時にいし 諸罪を 赦し たま—え。
 罪なき者なければな—り、
 唯爾は罪なし、且つ世を逝りし者に安息を賜うを能くす。
 今も何時も世世に アミン、
 言い難きひかりの 聖なるははよ、
 我等天使の歌を以て、爾を尊みて、敬虔に崇め讃—む。

第16カフィズマ（聖詠）の誦読

[第1スタチア]『聖詠經』を用いる。

誦經 第109 110 111 聖詠

誦經 光栄は父と子と聖神^oに帰す、

(詠) 今も何時も世世に、「アミン」

ア ril l i ya、ア ril l i ya、ア ril l i ya、神よ、光栄は爾に帰す。(三次)

主憐れめよ (3回)、光栄は父と子と聖神に帰す。

誦經 今も何時も世世に、「アミン」

[第2スタチア]

誦經 第112 113 114 聖詠

誦經 光栄は父と子と聖神^oに帰す、

(詠) 今も何時も世世に、「アミン」

ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ、神よ、
 光栄は爾に帰す。(三次)主憐れめよ (3回)、光栄は父と子と聖神に帰す。

誦経 今も何時も世世に、「アミン」

【カフィズマ 第3スタチア】

誦経 第 115 116 117 聖詠

誦経 光栄は父と子と聖神[°]に帰す、今も何時も世世に、「アミン」
 ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ、神よ、光栄は爾に帰す。(三次)
 主憐めよ。(三次)

誦経 【セダレン】(坐誦讃詞)八調経その週の調、スポタ早課から「致命者讃詞」3、「死者の」、「生神女讃詞」

【ネポロチニ】「道に玷なきもの」(118 聖詠) 2段に分けて (1~93 と 94~175)

118-1 道に玷なくして、主の律法を履み行うものは福なり。(楽譜は一例、以下適宜歌う)

附唱



主よ、爾の僕婢のたましいを 安んぜしめたま - え

附唱 主よ、爾の僕婢の霊を安んぜしめたまえ

附唱



主よ、爾の僕婢のたましいを 安んぜしめたま - え

118-2 主の啓示を守り、心を盡くして彼を尋ぬる者は福なり。

附唱 主よ、爾の僕婢の霊を安んぜしめたまえ

-----118-91 まで同様に唱える (歌う) -----

118-92 若し爾の律法我の慰めとならざりしならば、我は我が禍いの中に亡びしならん。

附唱 主よ、爾の僕婢の霊を安んぜしめたまえ

118-93 我永く爾の命を忘れざらん、爾此れを以て我を生かせばなり。

附唱 主よ、爾の僕婢の霊を安んぜしめたまえ

「死者の連禱」

輔祭 我等復又安和にして主に祈らん、 (詠) 主憐れめよ、

輔祭 又寝りし神の僕婢 () の霊^{たましい}の安息の為、及び彼等に凡そ自由と自由ならざる
 罪の赦されんが為に祈る、 (詠) 主憐れめよ、

輔祭 主、神が彼 (等) の霊を諸擬人の安息する所に納れ給わんことを祈る

(詠) 主憐れめよ、

輔祭 彼等に神の憐れみと天国と諸罪の赦とを賜はんことをハリストス吾が死せざるの

王及び神に願ふ、 (詠) 主賜へよ、
 輔祭 主に祈らん、 (詠) 主憐れめよ、
 司祭 蓋ハリストス我等の神よ、爾は寝りし爾の僕婢 () の復活と生命と安息なり、
 我等光栄を爾と爾の無原の父と至聖至仁にして生命を施す爾の神^o とに献ず、今
 も何時も世々に、 (詠) 「アミン」



第2段 118-94-175

118-94 我爾に属す、我を救い給え、我爾の命を求めたればなり。(歌い方の例)



附唱 救世主よ、我を救い給え。(楽譜例は次ページ)



118-95 悪人は我を伺いて滅ぼさんと欲す、惟我爾の啓示を究む。

附唱 救世主よ、我を救い給え。

-----以下 174 節まで同様に読む-----

118-175 願わくは我が霊生きて爾を讃栄せん、願わくは爾の定めは我を助けん。

附唱 救世主よ、我を救い給え。

118-176 我は亡われたる羊の如く迷えり、爾の僕を尋ね給え、蓋我爾の誠めを忘れざりき。

附唱 救世主よ、我を救い給え。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

ア ril l i ya、ア ril l i ya、ア ril l i ya、神や光栄は爾に帰す (3回)

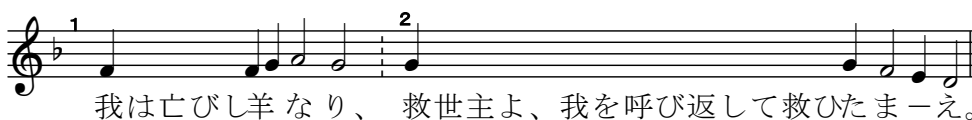
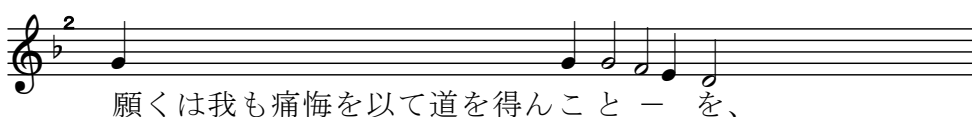
[トロパリ] 5 調

(詠) (附唱) 主や爾は崇め讃めらる、爾の誠めを我に訓へ給へ。

聖人の群は生命の泉と天堂の門とを得たり、願くは我も痛悔を以て道を得んことを。我は亡びし羊なり、救世主よ、我を呼び返して救ひ給へ。

(附唱) 主や爾は崇め讃めらる、爾の誠めを我に訓へ給へ。

神の羔を伝へ、己も羔の如く屠られて、老いざる永久の生命に移りし聖なる致命者よ、我等に罪償の赦を賜はんことを切に祈り給へ。



(附唱) 主や爾は崇め讃めらる、爾の誠めを我に訓へ給へ。

狭く苦しき道を過りて、／生ける中十字架の衡の如く負ひ、／信じて我に従ひし衆人よ、／来たりて汝らの為に備へたる褒賞と天の栄冠とを楽しめよ。

(附唱) 主や爾は崇め讃めらる、爾の誠めを我に訓へ給へ。

我は罪惡の創を逐へども、爾が言ひ難き光榮の像なり。／主宰よ、爾の造り

し者に憐を垂れ、／爾の恵にて浄め、／切に望める生国を我に与へて、／我を復樂園にすむ者と為し給へ。

(附唱) 主や爾は崇め讃めらる、爾の誠めを我に訓へ給へ。

昔無より造りて、／爾が神たる像^{かたち}にて飾り、／戒めを犯すに因りて／復我を我が出でしに歸しし主よ、／我神の肖^{すがた}に適ふ位に升せ、／古の華麗^{うるわしき}を以て我を改め給へ。

(附唱) 主や爾は崇め讃めらる、爾の誠めを我に訓へ給へ。

神よ、爾の諸僕を安んぜしめて、／聖人の群と義人が日の如く光れる樂園に入れ給へ。／爾の眠りし諸僕を安んぜしめて、／其の悉くの過ちを思ふ勿れ。

光栄は父と子と聖神に歸す。／一つの神性の三つの光を敬^{つつし}み歌ひて呼ぶ、無限の子と、聖神よ、／爾は聖なり。

我等信を以て爾に勤むる者を照らして、／永遠の火を免れしめ給へ。

今も何時も世々にアミン。／衆人の救の為に身にて神を生みし潔き者よ、慶べ、人の属^{やから}は爾に因りて救を得たり。／潔くして讚美たる生神女よ、願くは我等爾に因りて樂園を得んことを。

ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ。神よ、光栄は爾に歸す。(3回)

「死者の連禱」

輔祭 我等復又安和にして主に祈らん、 (詠) 主憐れめよ、
 輔祭 又寝りし神の僕婢 () の霊^{たましい}の安息の為、及び彼等に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんが為に祈る、 (詠) 主憐れめよ、
 輔祭 彼等に神の憐れみと天国と諸罪の赦とを賜はんことをハリストス吾が死せざるの王及び神に願ふ、 (詠) 主賜へよ、
 輔祭 主に祈らん、 (詠) 主憐れめよ、
 司祭 蓋ハリストス我等の神よ、爾は寝りし爾の僕婢 () の復活と生命と安息なり、我等光栄を爾と爾の無原の父と至聖至仁にして生命を施す爾の神[°]とに献ず、今も何時も世々に、 (詠) 「アミン」



[セダレン] 5 調

我が救世主よ、／爾の諸僕を義人等と偕に安んぜしめて、／録しし如く、これを
 爾の庭に居らしめ給へ。／爾の仁慈なるに因りて、／其の自由と自由ならざる、
 其の凡そ知ると知らざる罪を恕し給へ、／爾は人を愛する主なればなり。／／
 光榮は父と子と聖神に帰す。／

其の知ると知らざる罪を恕し給へ、／爾は人を愛する主なればなり。／／
 今も何時も世世にアミン。／

童貞女より世界に輝き、／彼を以て光の諸子を顕ししハリストスかみよ、／／我
 等を憐み給へ。／／

誦経

第 50 聖詠

神よ、爾の大なる憐に因りて我を憐み、爾が恵の多きに因りて我の不法
 を抹し給へ。屢我を我が不法より洗ひ、我を我が罪より清め給へ、蓋我は我
 が不法を知る、我の罪は常に我が前に在り。我は爾独爾に罪を犯し、悪を爾
 の目の前に行へり、爾は爾の審斷に義にして、爾の裁判に公なり。視よ、
 我は不法に於て妊まれ、我が母は罪に於て我を生めり。視よ、爾は心に眞實の
 あるを愛し、我が衷に於て智慧を我に顯せり。「イソップ」を以て我に沃げ、然
 せば我潔くならん、我を滌へ、然せば我雪より白くならん。我に喜と樂
 とを聞かせ給へ、然せば爾に折られし骨は悦ばん。爾の顔を我が罪より避け、
 我が盡くの不法を抹し給へ。神よ、潔き心を我に造れ、正しき靈を我の衷
 に改め給へ。我を爾の顔より逐ふこと母れ、爾の聖神を我より取り上ぐる
 こと母れ。爾が救の喜を我に還せ、主宰たる神を以て我を固め給へ。我不
 法の者に爾の道を教へん、不虔の者は爾に帰らんとす。神よ、我が救の神よ、
 我を血より救ひ給へ、然せば我が舌は爾の義を讃め揚げん。主よ、我が唇を啓
 け、然せば我が口は爾の讚美を揚げん、蓋爾は祭を欲せず、欲せば我之を獻
 らん、爾は燔祭を喜ばず。神に喜ばるる祭は痛悔の靈なり、痛悔して謙遜な
 る心は、神よ、爾輕んじ給はず。主よ、爾の恵に因りて恩をシオンに垂れ、イ
 エルサリムの城垣を建て給え、其時に爾義の祭、獻物と燔祭とを喜び饗けん、
 其時に人人爾の祭壇に贖を奠へんとす。

司祭 神よ、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降し給へ、慈憐と洪恩とを以て爾の世
 界に臨み、正教の「ハリストティアニン」等の角を高うし、我等に爾の豊なる憐
 を垂れ給へ、至浄なる我等の女宰・生神女・永貞童女マリヤの禱と、生命を施す
 尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光榮なる尊き預言者・前驅・授洗イオア
 ン、光榮にして讚美たる聖使徒、我等の聖神父・世界の大教師・成聖者・大ワシ
 リイ、神學者グリゴリイ、金ロイオアン、我等の聖神父・ミラリキヤの大主教・
 奇蹟者ニコライ、我等の聖神父・全ロシアの奇蹟者ペトル、アレキシイ、イオナ、

フィリップ、光榮なる凱旋の聖致命者、克肖捧神なる我が諸神父、聖にして義なる神の祖父母イオアキム及びアンナ、聖〇〇（本堂の聖人の名を擧ぐ）及びことごとくきの聖人の転達よに因りて、大仁慈の主よ、爾に求む、我等罪人爾にまする者に聆きき納れて、我等を憐めよ。

(詠) 主憐めよ(十二次)

司祭 爾が獨生子の仁慈とじれん慈憐と仁愛とよに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命いのちを施す爾の神^oとともに讃揚せらる、今も何時いつも世世に。

(詠) 「アミン」

Lm-12主憐れめよ12回

主 あわれめ (よ) 主憐れめ (よ)、主憐れめよ 主憐れめよ

主憐れめよ、主憐れめよ、主憐れめよ、主憐れめよ、主憐れめよ

主 あわれめよ、主憐れめよ、主憐れめよ アミン

※カノンへ